2007 年度 修了

住民と保健師の関係性から考える保健師実践のあり方

―高齢者筋力トレーニング自主グループの形成プロセスにおける相互作用の分析から―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
植村　直子

健康日本２１では,住民が地域における健康づくりの主役であること,住民と行政の協働による取り組みを実践していく必要があることが言われている。本論文では住民と協働した保健師実践のあり方について考察するため，保健所における高齢者対象の筋力トレーニング教室の参加者が立ち上げた自主グループのプロセスについて分析を行った。目的は次の３点である。①参加者である住民が自主グループ活動に参加する背景と継続参加する要因を分析し,地域保健における高齢者の自主グループ活動の意義を考察する。②住民と保健師の相互的視点から自主グループのプロセスを分析し,住民と保健師の関係性および保健師の役割について「足場づくり(scaffolding)」の理論を踏まえて考察する。③これらのことより住民と保健師の関係性から保健師実践のあり方を考察する。

データの収集はインタビュー（１０名）,アンケート（１６件）,及び参与観察（４回）を実施した。面接逐語録を KJ 法で整理した結果,自主グループ参加者の背景と継続参加する要因として「健康でありたい思い」,「安心・気楽なグループへのニーズ」,「運動継続による効果の実感」,「仲間との交流の楽しさ」,「グループが続いていくことへの願い」の５カテゴリーが抽出された。次に,自主グループが一年経過するまでのプロセスについて複線径路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model：ＴＥＭ）を用いて分析した。TEM により参加者,保健師の双方の視点からプロセス図を作成した結果,住民と保健師の対話による相互作用により住民のニーズを把握した保健師が「足場」を設定し,それをきっかけに参加者と保健師,または参加者どうしが対話しながら次の展開に進んでいくという時間軸にそったプロセスが説明できた。この分析を試みたことにより保健師の一方向的な視点に反省的視点が入り込むことになり,保健師の実践レポートに終始しない考察が可能となったのではないかと考える。

最後に,保健師実践の研究の文脈で本論文の知見を考察した。本論文ではある場所でのあるグループについて分析を試みた結果,そこには時間の流れとともにあるグループのプロセスが描かれた。住民と保健師の相互作用により展開されていくプロセスにおいて,保健師は必要に応じて臨機応変に「足場づくり」を行っている。そして,これは国や保健師の理想を住民に押し付けるものではなく住民が潜在的なニーズを形作っていくことを支援するというものであり,結果的に健康日本２１の理念で言われている「住民と行政の協働」,「住民第一主義」にかなうものであった。

住民との協働による取り組みが実践できること,またそれをエビデンスとして発信していくことは,保健師にとって自分たちの活動の意義と楽しさを教えてくれるであろう。